

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年11月分】

1. 実施した活動の概要・状況

冬に近づいてきて朝と夕の寒暖差が顕著に現れるようになってきた。焼き干しも本格的に串に通して焼く作業に入った。先月から計画をした研修旅行を実施したり、川内中学校の生徒への人生を語ったり、むつ下北未来創生キャンパス祭の出展など人と関わるとともに自分の活動を振り返る機会に恵まれた。また、下北ワインとジャズの夕べのイベントの募集を開始するなど、自分の経験値を高めつつ地域に貢献できる機会が多くあった。

来月開催のイベントの準備を進めるとともに、次年度の準備も並行して進めていきたい。

（主な活動）

◇11月7日（月）～毎週月曜日 脇野沢地区での焼き干し体験

先月、頭もぎの手伝いをした、焼き干し体験の串に通す作業、焼く作業の体験を毎週月曜日の朝5時から行っている。この作業では早朝に解凍したイワシを乾燥させ、前日に乾燥させていたイワシを串に通す作業を午前中に行い、串に通したイワシを焼く作業、焼いたイワシを並べて乾燥機で乾燥させる作業を午後に行う。まだ外がうす暗い中からイワシの大きさ、種類ごとに分けて、決まったサイズを決まった場所から串に通して、つぶれないように加減しながら押し込んで1本14尾のイワシの串を作っていく。午前中に完成させたイワシの串を、午後は炭で焼いていく。シルバーのイワシの壁がゴールドに代わっていく様は圧巻であるとともに、やけどをしながらも焦げないように回収する作業はどの作業よりもつらいということがわかった。

この体験を通じて、手間のかかる作業の上に「焼き干しラーメン」があるのだと作っている方への感謝の気持ちを改めて抱くことができた。同時にこの貴重な体験をさせてくださった漁師さんに感謝の気持ちでいっぱいとなった。今後も体験学習に積極的に参加し、伝統を絶やさないようにするとともに広く発信するための策を講じていきたい。



◇11月16日（水）～17日（木） 函館研修旅行

函館市、鹿部町にて1泊2日の研修旅行の計画、実施をした。計画の段階では、先方への連絡と予約含め旅行にかかる事前準備を行い、当日はドライバーを務めた。1日目に函館市地域おこし協力隊の方と対談をしたのち、カヌー体験をした。2日目は鹿部町の地域おこし協力隊卒業のちカフェを運営している方との対談をし、北海道の馬を用いた観光事業の体験をした。

函館市の協力隊員は海外との貿易をするミッションであった。海外で獲れない海産物や海外向けの商品を開発して輸出していた。また、近年の温暖化による魚種の入替わりにも対応し、輸出だけでなく、地元での消費も促進していた。

カナディアンカヌーの乗船体験では、カヌーの乗船におけるガイドだけでなく、事前の準備の重要性も学ぶことができた。野生動物の動きや痕跡、最近の事情や行動範囲などガイドを聞くだけでも楽しいと思わせられた。また、落水時の対応と着替えの用意、寒くなった時の手袋の提供など、お客様への配慮を実体験で学ぶことができた。

鹿部町の元協力隊員は「ゆったり過ごせる場所を作りたい」と、地元で初のカフェを設立し、特産品であるタラコの新商品開発と販売を行っていた。また、現地域おこし協力隊の方々とも対談をし、情報発信の手段や今後の活動へのアドバイス等をいただいた。

乗馬体験では、北海道を中心に広く飼育されている「どさんこ」に乗馬をし、山道を歩いた。北海道の自然を見ることはもちろん、馬の筋肉の動きや息遣いから生き物の命を感じ、全身で北海道を満喫する体験をすることができた。

この研修旅行では、研修内容はもちろん、旅行の際の自分の動き方、質問時の流れなど、研修以外で得られるものがたくさんあり、自分の不甲斐なさに気づく部分が多々あった。この気づきや得られたものは、今後の活動においても、今後の過ごし方においても活かせる部分であると思うので、常に自分を客観視して行動していきたいと考える。また得られたものは随時実行、計画し、新鮮なうちに発信していきたいと考える。



2. 翌月の活動予定

12月に入り、本格的な冬が到来する。雪道での事故の無いよう努めつつ、この時期にしかできないようなイベントを随時計画していきたいと考える。下北ワインのジャズとタベは今後も定期的に開催したいと考えているので、来月の開催をもとにさらに磨きをかけていきたいと考える。

12月 3日 学習発表会

12月10日 県民局地域づくりプレイヤーの活動を広げるネットワークづくり 参加

12月17日 下北ワインとジャズのタベ

12月18日 高校生事業発表会